

アジア防災会議2007

～より安全な世界に向けて～

コンセプトペーパー

1. 国連防災世界会議以降の国際防災の流れ

- 1.1 兵庫県神戸市において 2005 年 1 月に開催された国連防災世界会議(WCDR)は、今後 10 年の災害へのリスクや脆弱性を削減するための世界的取り組みとして、極めて重要な意味を持つものである。会議では、世界的な災害発生件数の増加やその規模の拡大により、人々の災害に対する脆弱性がより高まっていることに対する懸念が伝えられ、防災への総合的なアプローチの必要性が確認された。そして会議の最も重要な成果は、「兵庫行動枠組(HFA) 2005-2015: 災害に強い国・コミュニティの構築」を採択したことである。この HFA は、HFA への国際的な参画や目標達成のために、すべての関係者に対し 5 つの分野における優先行動を示した世界の防災活動の指針となるものである。
- 1.2 WCDR 以降、HFA の目標達成のため、重要な取り組みがさまざまなレベルで計画・実施されている。2005 年 9 月には、中国・北京でアジア閣僚級防災会議が開催され、優良事例や教訓を共有し、HFA の目標達成に向けたアジア諸国間における地域協力を推進するための議論の場となった。また 2005 年 5 月には、WCDR の提言を踏まえ、HFA を推進するため、国際復興支援プラットフォーム(IRP)が設立された。その後 2006 年 3 月には、アジア防災会議(ACDR)2006 が韓国・ソウルで開催され、HFA の進捗状況の検証のほか、目標達成に向けての障害など様々な問題の確認が行われ、国レベルでの戦略的行動計画と総合的な防災政策推進など、アジア諸国の HFA に対する決意と支援が改めて表明された。最近では、2007 年 1 月神戸市において「国際津波・地震フォーラム」が開催され、HFA の進捗状況の検証、および現在進行中の復興活動の状況報告が行われた。
- 1.3 さらに、アジアにおける域内協議の場として、防災に関する地域諮問委員会の第5回会合が 2005 年 5 月にベトナム・ハノイにおいて、また、第6回会合が 2006 年の 11 月に中国・昆明において、アジア災害予防センター(ADPC)の支援の下、開催された。WCDR 以降に開催されたこれらの会議は WCDR の理念を引き継ぎ、HFA の実施状況を検証する機会となった。また、HFA の進捗状況を把握するために地域的なメカニズムを利用することが合意され、アジア地域における災害リスク軽減の取り組みを集約するベースラインレポートが作成されることとなった。
- 1.4 災害リスク軽減のための重要な取り組みは、東南アジア諸国連合(ASEAN)、南アジア地域協力連合(SAARC)、台風委員会、熱帯サイクロン委員会、国際総合山岳開発センタ

一(ICIMOD)、メコン川委員会(MRC)等の機関によって、アジア域内の准地域的なレベルにおいても実施されている。

1.5 一方、国連国際防災戦略(ISDR)事務局は、関係機関との連携の下、HFAの目標達成に向けて、各国各機関を支援するために様々な取り組みを進めている。最近では、「兵庫行動枠組の実施状況報告のためのガイドライン」を作成したほか、「災害リスク軽減進捗状況評価指標ガイド」を作成し、配布している。また、「言葉を行動へ：HFAの着実な推進に向けて」という指針も発表したところである。

1.6 また、ISDR事務局と関係機関は、防災教育と学校施設の安全対策という二つの重要テーマを、2006年から2007年の2年間にわたる世界防災キャンペーンのテーマとすることとした。2006年6月に立ち上げられた世界防災教育キャンペーン2006-2007:「学校から始める災害リスク軽減」では、子供たちの安全確保と災害への備えを強化する活動に子供たちを巻き込むことの必要性が強調された。このキャンペーンは、罹災リスクの高い国々において災害リスク軽減についての授業がカリキュラムに十分に反映されること、そして校舎は自然災害に耐えうるよう建築又は補強するものであるということ、政府機関、地域コミュニティ及び各個人に認識させ、そのための活動に参画させることを目的とするものである。このキャンペーンには、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)、国際児童基金(UNICEF)、アクションエイド(ActionAid International)、国際赤十字社・赤新月社連盟(IFRC)など、ISDRの知識・教育分野に特化したクラスターグループのメンバーが参加している。

2. HFAの効果的推進に向けた国際防災戦略(ISDR)システムの強化

2.1 国際防災分野において、現在特筆すべき点としては、HFAの目標達成に向けて、各国各機関の能力や実効性を高めるために、ISDRシステムを強化したことが挙げられる。これは、ISDRによる支援と指導への要請の高まりを受け、不可欠となったものであるが、システムの強化には、開発部門を含めた防災全般についての政治的関与と資金調達の拡充が必要となる。共同での防災計画策定やその取り組みの成果への順位付けは、世界的にも地域的にも、防災活動の一貫性および調整機能を高め、各国やコミュニティが防災力を向上させるために必要な技術支援を提供しやすい環境を作っている。従って、現在ISDRは、世界的な災害リスク軽減パートナーシップに基づくシステムへと発展していると考えられ、具体的には、調整機能や資金確保機能を充実させ、関係各機関が一体となった取り組みを通して、世界的な災害リスク軽減課題に対する大幅な前進を目指すものである。

2.2 そのISDRシステム強化の中核をなすのが、諮問機関としての防災タスクフォースから防災グローバル・プラットフォームへの移行である。タスクフォースよりも多くのメンバー(国や国際機関、市民社会を含む)から成る防災グローバル・プラットフォームは、防災に関する世界的な協議の場としての役割が期待されている。そして、数年のうちには、HFA

の実現に向けて、各関係者の経験や専門知識を共有するための指針の提示、および一貫性を示してくれるものとなるであろう。第一回防災グローバル・プラットフォーム会合は、2007年6月5日から7日までの間、ジュネーブ(スイス)で開催された。

3. アジア防災会議(ACDR)2007 の開催

3.1 アジア防災センターの年次会合であるアジア防災会議(ACDR)は、アジアにおける地域防災協力活動をより強固で効果的なものに行っている。ACDR2007は、2007年6月25日から27日の間、カザフスタン共和国の招聘により、同国の首都アスタナ市で開催されることとなった。この会議は、第一回防災グローバル・プラットフォーム会合後に開催される初めての国際防災会議であり、また2007年11月にニューデリー(インド)で開催予定の、アジア地域防災閣僚会議に先立つものである。従って、ACDR2007はHFAの進捗状況を更に検証し、防災グローバル・プラットフォーム会合のメッセージをアジア地域や、防災閣僚会議へと発信する重要な場として位置づけられている。

3.2 ACDR2007は、アジア地域におけるHFA実施状況の報告・検討、優良事例や成果の評価、HFAを実施していくうえでの障害や課題の特定、今後の方向性の提言などを行うものである。また、ガバナンス、教育、科学知識の応用、官民連携、コミュニティ防災といった関連トピックにも取り組むとともに、以下の情報を参加者に提供することとしている。

(イ) 国別のHFA実施状況の報告

(ロ) 防災を主流化(メインストリーミング)することを通じ開発に貢献するための既存の指針の紹介と議論

(ハ) 新しいISDRシステムの各国への報告と、HFA実施を推進するためのシステムの活用法

3.3 この結果、期待されるACDR2007の成果は次のとおりである。

(イ) 災害リスク軽減に対し、包括的で統合されかつ地域が一体となった取り組みに対する意識強化

(ロ) 気候変動、環境破壊、都市化及び貧困といった新たに顕在化した複雑な問題への対応の必要性の理解

(ハ) 災害リスク軽減分野における優良事例、ガイドライン、教育やトレーニング手法、科学知識の応用、コミュニティ活動の促進、さらには官民連携などに関する経験の共有

(ニ) 各地の個別のニーズへの配慮の必要性と、住民を中心とした、ボトムアップ、トップダウンアプローチの組み入れの必要性の認識

(ホ) ナショナルプラットフォーム、地域的・准地域的ネットワーク、課題別プラットフォームや専門家のネットワークなどを含め、協調的パートナーシップを促進させるための効果的な仕組みである強化された新たなISDRシステムの周知

* - * - *